

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 淀川区

学 校 名 宮原小学校

学校長名 谷村 道

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立宮原小学校では、第6学年 98名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、国語73%・算数62%・理科65%となっており、大阪市平均（国語65%・算数58%・理科55%）、全国平均（国語66.8%・算数58.0%・理科57.1%）ともに、上回ることができた。

平均無回答率については、国語1.6%・算数1.8%・理科1.6%とかなり低く、また、大阪市平均（国語2.8%・算数3.3%・理科3.0%）、全国平均（国語3.3%・算数3.6%・理科2.8%）とともに下回っており、諦めずに粘り強く、問題に向かう姿勢をうかがえた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕学習指導要領の領域「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」において、平均正答率を全国と比べると、「A話すこと・聞くこと」「C読むこと」において上回ることができた。しかし、「B書くこと」においては0.4ポイント下回る結果となり、記述式形式の正答率をみても63.0%（全国平均58.8%）とやや低い結果となり、課題が見られた。

〔算数〕学習指導要領の領域「A数と計算」「B図形」「C測定」「D変化と関係」「Eデータの活用」において平均正答率を全国と比べると、各領域とも3～7ポイントほど上回る結果となった。しかし、問題の中には全国平均正答率が低いものの本校平均正答率が低い（35.4%）問題もあり、今後の課題として取り組む必要がある。

〔理科〕学習指導要領の領域「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」において、平均正答率を全国と比べると全ての領域で上回ることができた。特に「生命を柱とする領域」においては大幅（17.6ポイント）に上回ることができた。

質問調査より

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、肯定的回答が98.1%で、全国平均（97.2%）、大阪市平均（96.7%）を上回ることができた。今後もいじめに関する年間指導計画に従って指導実践を行うことで、児童の自身の人権感覚を磨き、最も肯定的な回答を90%以上を目指していく。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して肯定的な回答をしている児童が70.2%と、全国70.6%、大阪市74.6%を下回る結果となった。今後はさらに、児童理解に努め、カウンセリングマインドを意識するだけでなく、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどの専門機関とも連携をとりながら対応していく。

今後の取組(アクションプラン)

国語においては、「子どもが読みたくなる・話したくなる授業づくりをめざして一自分の言葉で考えて表現できる子どもの育成」を研究主題として取り組んでいく。研究の視点として、「児童が自ら読みたくなる授業づくりの工夫」をあげ、さらなる学力向上をめざしていく。

算数においては、学年ごとに指導計画や指導方法・板書内容の調整を図り、学びサポーターを活用した指導体制を維持したり、一人1台端末を活用したりすることで、個別最適な学びに繋げて、基礎的・基本的な知識や技能定着を図っていく。

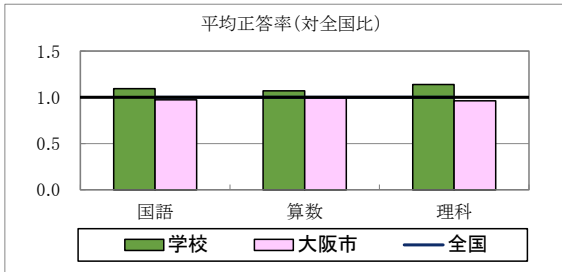
理科においては、専科制を取り取り入れることで、授業内容をより深く研究することができ

学習の定着を図ることができるようにしていく。また、専門的に学習内容を指導することで児童が興味・関心をもって学習に取り組むことができ、さらなる学力の向上に繋げていく。

【 全体の概要 】

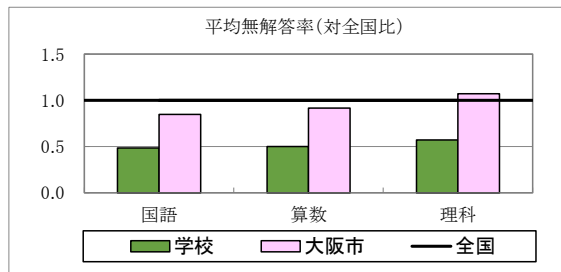
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	73	62	65
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	1.6	1.8	1.6
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



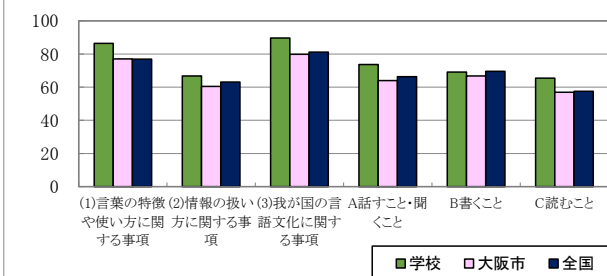
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	86.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	66.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	89.6	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	73.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	69.1	66.7	69.5
C 読むこと	4	65.4	56.9	57.5

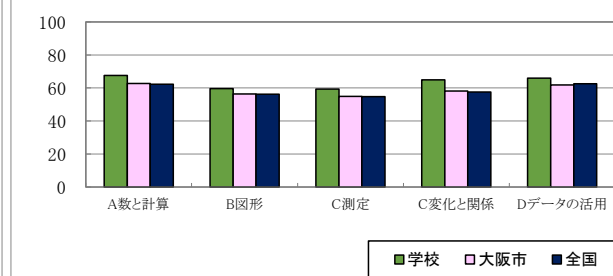
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	67.6	62.7	62.3
B 図形	4	59.6	56.4	56.2
C 測定	2	59.4	54.9	54.8
C 変化と関係	3	64.9	58.2	57.5
D データの活用	5	66.0	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

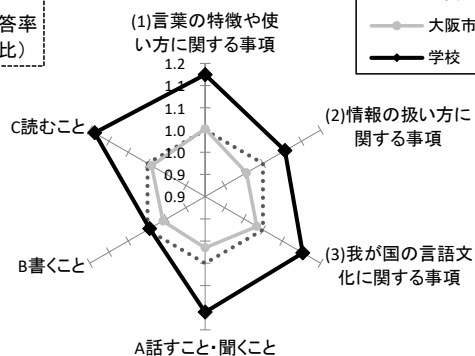


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



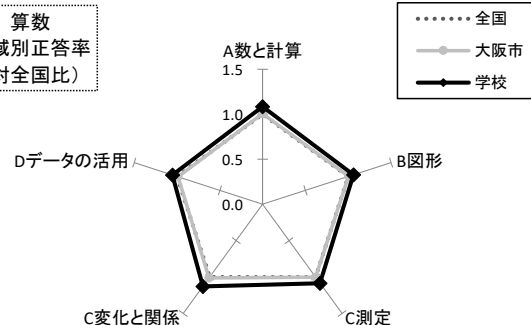
国語

内容別正答率
(対全国比)



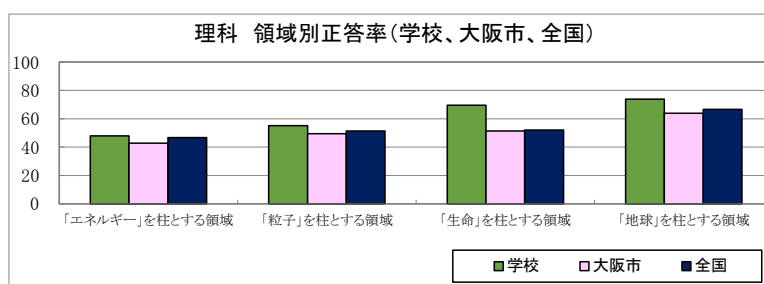
算数

領域別正答率
(対全国比)

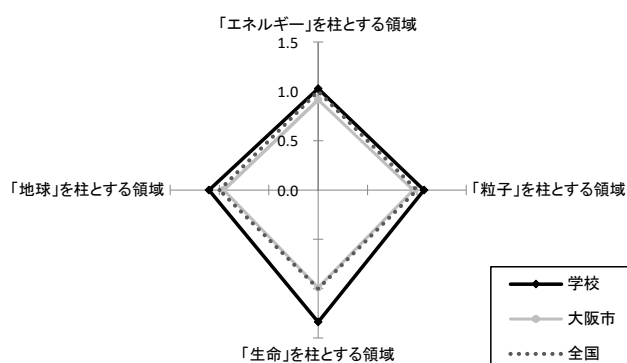


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	48.0	42.7	46.7
「粒子」を 柱とする領域	6	55.1	49.5	51.4
B 区分 「生命」を 柱とする領域	4	69.6	51.4	52.0
「地球」を 柱とする領域	6	73.8	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

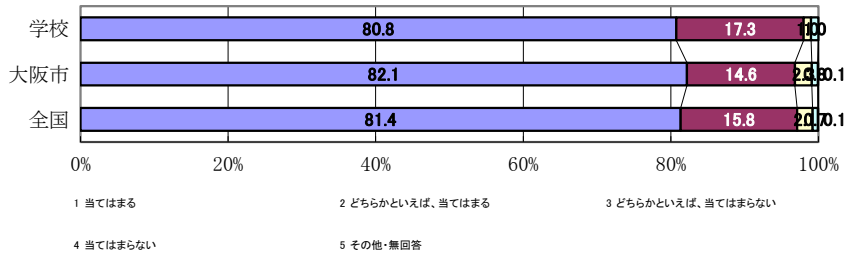
質問番号

質問事項

9

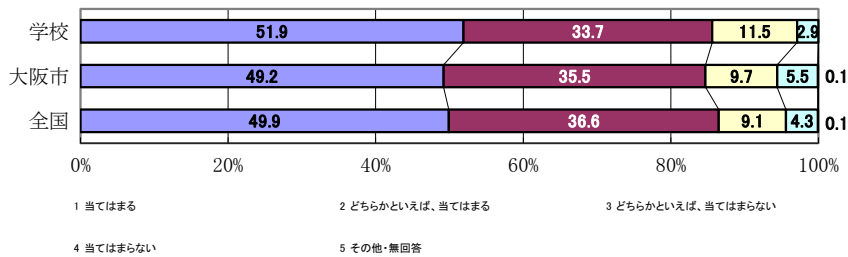
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



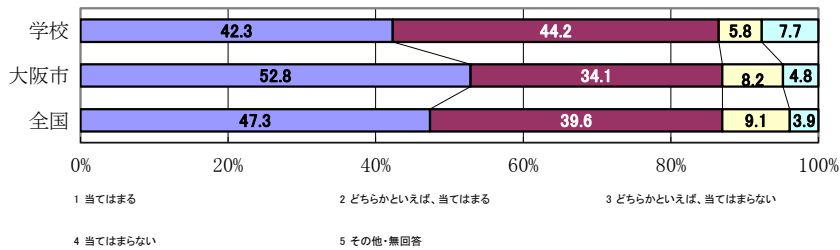
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



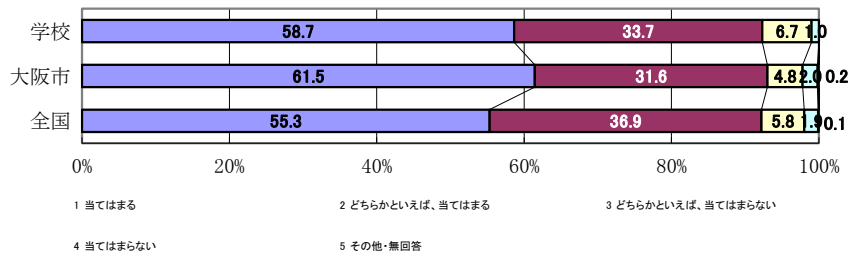
5

自分には、よいところがあると思いますか



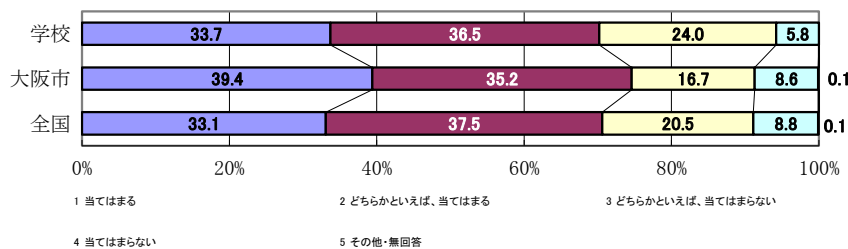
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



学校質問より

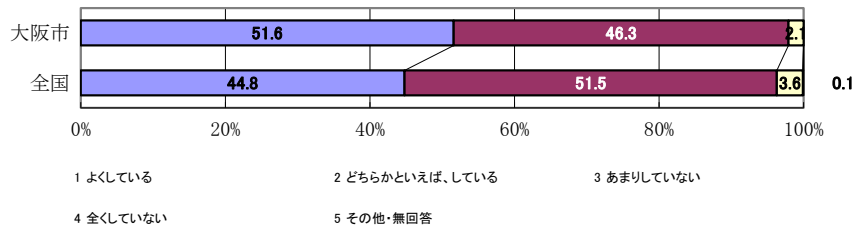
質問番号

質問事項

17

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

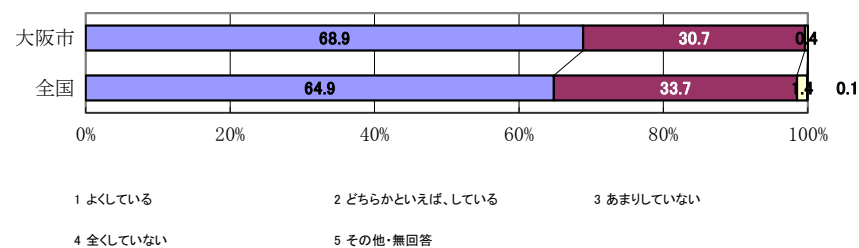
学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

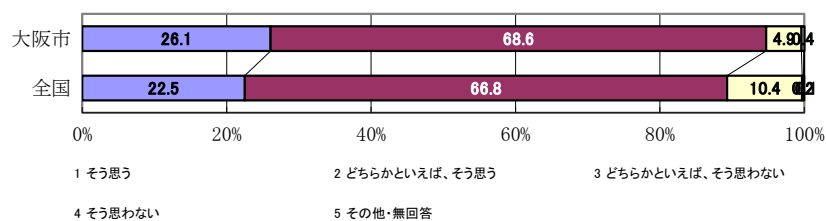
学校 「よくしている」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

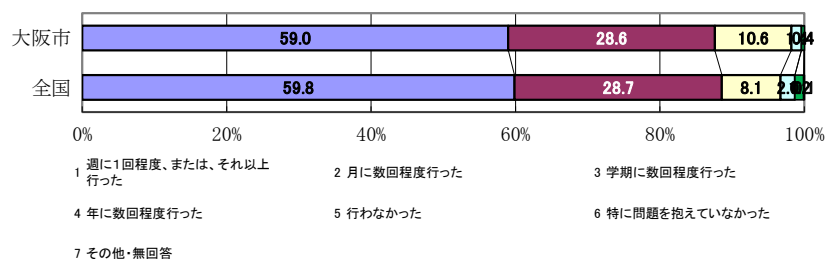
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

